OUKA
Osaka University Knowledge Archive



Title	『勅賜興元閣碑』モンゴル文面訳註
Author(s)	松川, 節
Citation	内陸アジア言語の研究. 23 P.35-P.54
Issue Date	2008-07
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/17767
DOI	
Rights	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA
http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/

Osaka University

『勅賜興元閣碑』モンゴル文面訳註

松川　節

はじめに

1346年，大元ウルス皇帝トゴンテムルの勅命を受け，許有壬の撰文によってカラコルムに建てられた漢文・モンゴル文対訳『勅賜興元閣碑』は，五層90mという壮麗な仏塔を伴う興元閣という仏閣が，至正2（1342）年から四年かけて重修されたことを記念したものである．この碑石は，19世紀末にその断片が初めて発見されて以来，当時まだはっきりしていなかったカラコルムの位置決定のための根本史料として利用されただけでなく，21世紀に入ってからの考古学的発掘調査によって，オゴデイの万安宮があった場所に興元閣が建てられたという新説が出され[(1)]，また，万安宮付近に現存する巨大な亀趺に載っていたのは，他でもないこの『勅賜興元閣碑』であること[(2)]が明らかになり，カラコルムの歴史を解明するための重要な史料として注目を集めつづけている．

『勅賜興元閣碑』の漢文テキストは，許有壬による『至正集』，『圭塘小稿』によってほぼ完全な形で伝えられているが，碑石そのものは，16世紀末，現地にエルデネ＝ゾー僧院が建立されるさい，分断され，堂宇の礎石や欄干用の石材として再利用された．そのため，いくつかの断片のかたちでしか伝存していない．19世紀末のラドロフW. Radloff探検隊によって2碑片（Radloff XLI-1, XLI-2/-3），1926年のポッペH. H. Поппе の調査によって，さらに2碑片（Poppe 1, 2）が見つかっていた[(3)]．

2003年8月，ドイツ・モンゴル共同「カラコルム宮殿」プロジェクト隊によって新たな1碑片が発見され，2005年6月にボンで開催された「チンギスハンとその継承者たち」展で公開された．筆者は，同展の図録［Katalog］

(1) Hüttel 2005, p. 145; 白石・ツェヴェーンドルジ 2007, p. 9.
(2) 白石・ツェヴェーンドルジ 2007, p. 7.
(3) 後述するように，コトヴィチは1912年に現地でさらに3碑片を発見したと報告しているが，その後の消息は不明である．

に掲載された拓影と解説文に基づき，この新発現の碑片を紹介しつつ，解読を試みた［松川 2006］.

その後，この新碑片の解読や出土状況についての研究がモンゴル国の研究者によって公表され，さらに，前稿［松川 2006］の「おわりに」で言及した別の新たな一碑片についての研究が白石典之・ツェヴェーンドルジによって公表されたため，筆者はそれらを踏まえた上で，『勅賜興元閣碑』の再構案を提出し［松川 2008］，現在にいたっている．本稿では，これらの成果に依拠しつつ，『勅賜興元閣碑』モンゴル文テキストの日本語訳註を試みたい.

1．『勅賜興元閣碑』研究史

モンゴル帝国の首都カラコルムの学術調査は，1889 年，ロシア帝国科学アカデミーの派遣したオルホン探検隊(ラドロフ団長)によって初めて行われ，その成果は，『オルホン探検叢書集成』と，1892 ～ 99 年に 4 分冊で刊行された『モンゴル古代遺蹟図冊』として残されている．後者の第一分冊［Radloff 1892］には，エルデネ＝ゾー内外から発見された様々な漢文碑文やウイグル文字モンゴル語碑文，アラビア文字ペルシア語碑文などの拓影が収録された.

この中のウイグル文字モンゴル語碑文［Radloff 1892, XLI-I, III］に最初に注目したのは，ポーランドのモンゴル学者コトヴィチ B. Котвич であった．コトヴィチは 1912 年に現地を訪問し，ラドロフが拓影を発表した 2 碑片に接合すると見られる 3 碑片を新たに発見し，1918 年に報告した［Котвич 1917］.

コトヴィチの報告によると，新たに発見された 3 碑片は，エルデネ＝ゾー僧院の西壁の門から南側に下がった最初と 2 番目のストゥーパの基石にはめ込まれており，僧侶の反対によって，それらを取りはずすことはできず，そのままの状態で採拓することを余儀なくされた．これらのモンゴル語の 3 碑片は，碑文全体から見ると，ラドロフの発表した 2 碑片が下方を占めているのに対し，2 片が中央部，1 片は右上部を占めており，いずれも碑文の冒頭と末尾を含んでいないので立石年は明らかでないが，六十干支による年号表示や，チンギス，オゴデイ，モンケの名前が刻まれている［Котвич 1917, p. 207］.

コトヴィチは，結局この3碑片の釈読は公表せず，ラドロフの2碑片のうちの1碑片［Radloff 1892, XLI-I］を再度採拓し，移録・釈読するにとどまった［Котвич 1917, pp. 209-214］．一方，コトヴィチが新たに発見したとする3碑片の所在については，その後いかなる報告も無く，現在に至るまで「再発見」されていない．

1926年，ソ連のモンゴル学者ポッペは現地調査を行ない，さらに新たなウイグル文字モンゴル語碑片2つを見いだし，写真と移録を発表した．そして，この2碑片は厚さが37cmで，コトヴィチが移録・釈読した1碑片（すなわち［Radloff 1892, XLI-I］）の厚さ18cmと合致しないので，別の碑文であろうとした［Поппе 1929, pp. 14, 20］[(4)]．なお，ポッペの2碑片の裏面には漢文が刻されていたが，ポッペは，あまりに断片にすぎるため，その内容に言及するのは困難であると述べただけであった［Поппе 1929, p. 22］．

ところで，1892年にラドロフがウイグル文字モンゴル語碑文の拓影［Radloff 1892, XLI-I, III］とともに公表した漢文碑文の拓影［Radloff 1892, XLI-II］については，早くも1897年に李文田が著わした『和林金石録』において著録され，それが許有壬の『勅賜興元閣碑』の一部であることが明らかにされていた．一方，ラドロフとポッペによる計4つのウイグル文字モンゴル語碑片が，いずれも『勅賜興元閣碑』のモンゴル語版であることを明らかにしたのは，フランスの東洋学者ペリオ P. Pelliot であった［Pelliot 1925, pp. 373-374; 1930, pp. 228-229］．

こうして得られた『勅賜興元閣碑』モンゴル文面の4つの碑片を，漢文面の1つの碑片及び編纂史料（『至正集』所収の『勅賜興元閣碑』）と対照しつつ総合的に研究したのが，アメリカのモンゴル学者クリーヴス F. W. Cleaves である［Cleaves 1952］．クリーヴスは，まず，この碑文の発見と研究史を述べた上で，『至正集』所収の漢文テキスト『勅賜興元閣碑』に訳註を付し，その上で，断片的なモンゴル語テキストの転写と訳註を試み，全体の3分の1に及ぶテキストの欠損部分については，漢文テキストに基づいて，部分的

(4) このポッペの想定は単なる誤解である．すでにコトヴィチは，Radloff XLI-Iの反対面に漢文が無いのは，切断されたからだと見なしている［Котвич 1917, p. 208］．切断された結果，厚さ18cmとなったのである．なお，前田直典は1945年に発表した論文「元朝行省の成立過程」の註5において，ポッペの想定が誤解であることを看破している［前田 1945, p. 6, 註5］

なテキスト再構築をも試みた．その完成度から見て，現時点でこれを越える総合的研究は提出されていないと言ってよい[(5)]．本稿の「研究史」もその多くをクリーヴスに拠っている．

2．新発現碑片に関わる最新の研究

「はじめに」で述べたように，筆者は2003年に新たに発現した1碑片の解読を世界に先駆けて公表した［松川2006］が，その後，モンゴル科学アカデミー考古研究所から刊行された『考古学研究』*Археологийн Судлал* に，この新発現碑片に関わる3本の論文が掲載された［Баяр 2005, Мөнхбаяр 2005, Munkhtulga 2005］[(6)]．バヤル Баяр 論文は本碑片が出土したエルデネ＝ゾー僧院内のツォグチン＝ドガン（＝大衆本堂）の発掘報告，ムンフバヤル Мөнхбаяр 論文は本碑片の漢文面の釈読，ムンフトルガ Munkhtulga 論文は本碑片のモンゴル文面の釈読である．

バヤル論文によると，本碑片が出土したツォグチン＝ドガンは，1763年に着工，1770年に竣工した．1930年代の宗教弾圧によって，完全に破壊された．2003年の発掘によると，堂宇は東西が約20.3メートル，南北は約23.5メートルで，3.2メートル間隔で柱の礎石62個が設置されていた．その礎石のうち，西から3つ目，北から2つ目に位置していたのが本碑片である．礎石の全体写真がバヤル論文及びムンフトルガ論文に掲載されており，それによると，モンゴル文テキストが残存しているのは，この碑片の右上部の一部分だけであり，それ以外の部分は剥落して現存していないことが見て取れる［Баяр 2005, p. 157; Munkhtulga 2005, p. 172］．

ところで，漢文面のさらに新たな一碑片の存在が最近報告された［白石2006, pp. 177-178］．白石氏によると，この碑片は1984年，万安宮と考えられてきた基壇の南斜面から発見され，縦25センチ，横40センチで漢字14文字が刻まれている．白石氏はこの碑片が『勅賜興元閣碑』の一部であるこ

(5) このほか，リゲティ［Ligeti 1972, pp. 22-26］，コルスンキエフ［Корсункиев 1980］，ドブ［Dobu 1983, pp. 319-340］，トゥルバト［Төрбат 1997］，ジャンチブ［Жанчив 2006, pp. 27-28］，トゥムルトゴー［Tumurtogoo 2006, pp. 25-26］による研究がある．

(6) 発行は2005年となっているが，Мөнхбаяр 2005は松川2006（2006年3月刊行）を引用しているため，実際には2006年夏以降に発行されたと思われる．

とを比定し，その成果を公表した［白石・ツェヴェーンドルジ 2007］.

3．モンゴル文面の復原と訳註

碑片のモンゴル文面は，コトヴィチの 3 点を除くとして，以下の 5 点が知られており，それぞれ拓影が公表されている：

Radloff 1	Radloff 1892, XLI-1; Төрбат 1997, pp. 98-99.
Radloff 3	Radloff 1892, XLI-3
Poppe 1	Поппе 1929, 1
Poppe 2	Поппе 1929, 2
2003 recto	Katalog p.151; Munkhtulga 2005, pp. 172-173.

これらのうち，現在，モンゴル科学アカデミー考古研究所に現物が保管されているのは，Radloff 1, Poppe 1 の下半分（以下，Poppe 1 lower とする），2003 recto の 3 点のみで，Radloff 3, Poppe 2, そして Poppe 1 の上半分（以下，Poppe 1 upper とする）は所在不明である．Radloff 1 は上下に破断している．また，Poppe 1 が 1926 年以降，いつの時点で上下に破断したのか，わかっていない．Radloff 1 と Poppe 1 lower の釈読にあたっては，日本・モンゴル共同ビチェース・プロジェクトにより新たに採った拓本を利用した．なお，Poppe 1 と 2003 recto はそれぞれ反対面に漢文が刻まれており，Poppe 1 は厚さ 37 センチ，2003 recto は厚さ 40 センチと報告されている．現存する Poppe 1 lower の反対面には，確かに漢文が現認できる．また，ラドロフの注記［Radloff 1892, Оглавление 第 3 頁参照］より，Radloff 2（漢文面）と Radloff 3 は同じ碑石であることがわかり，このことは筆者が碑石全体における各断片の配置を復原したところ，モンゴル文面・漢文面の位置関係からも確認できた．本稿註 4 の繰り返しになるが，現存する Radloff 1 の厚さは筆者の実測でも 18cm であり，ポッペの報告したとおりである．すなわち，碑石は厚さ 18cm のところで断ち切られたのであり，反対面は存在しない（反対面にあったはずの漢文面の所在は知られていない）.

モンゴル文面の転写と逐語訳

転写方式は，いわゆるリゲティ式［Ligeti 1972a］に拠り，転写できない文字は翻字 TRANSLITERATION で示した．欠けている部分は [　] で示してい

る．なお，行毎に，対応する漢文原文を示した．

[01] [　　] m-e [　　]
寺

[02] [　　] narbai ul[us-i] [　　] ging luu ǰ[il-ṯür] Qorum-a saγuqu balaγasun
広大な国 [土を]　庚 タツ 年 [に] ホルムに 居する 城市を
orosiγuluγsan aǰuγu. qoyin-a
定めたの であった。後に
太祖聖武皇帝之十五年, 歳在庚辰, 定都和林.

[03] [　　]' ǰasaγad [　]T sayi ordu [-ban] bosqaγuluγad tegüneče ulam
治め ～て初めて 宮殿 [(←自分の)を]建てさせて, それから更に
süm-e-yin ger bosqaγulur-un. degtü nödügülǰü keyid-i bosqaγulqu učir
寺 閣を 建てさせる際に, 土台つきで 築かせて, 屋舎を 建てさせる 時は
es-e boluǰuγu.
ならなかった.
太宗皇帝培植煦育, 民物康阜, 始建宮闕, 因築梵宇基而未屋.

[04] [　]a saγuγsan-u qoyin-a [　]luγad ye[ke bur]qan suburγan-i qorin
に 就いた 後 に ～して 大 [仏] 塔 を めぐり
bürküküi-e aγui öndür gau bosqaγultuγai kemen urad-i quraγaǰu
覆うのに 巨大な 高 閣 を 建てさせよ とて, 工匠たちを 集めて
bosqaγulqui-ṯur
建てさせたとき,
憲宗繼述, 歳丙辰, 作大浮屠, 覆以傑閣, 鳩功方殷

[05] [　]LY ayalar-a morilaǰuγu. teyin [　] songγuǰu ulam ulam [
遠征に旅立った。そのように 選んで 一層
qada]γalaγuluγsan-u tula süm-e-yin ger ülü udan sedkil-iyer bütügsen aǰuγu.
[監]督させた ため, 寺 閣は やがて 意のままに完成したのであった.
ene süm-e-yin ger kemebesü
この 寺 閣 はと言えば,
六龍狩蜀, 代工使能, 伻督絡繹, 力底於成. 閣

[06] [ ]R inu γurban ǰaγud toqoi-tu. dour-[a] [ ]N gen-tü keyid[-i bosq]aγuluγad

は 三 百 尺を持ち 下 ? 間 の建物[を建て]させて,

tede dotor-a burqan-nuγuṯi nom-un yosuγar ǰergeber orosiγuluγsan aǰuγui.

それらの中に 諸仏像を 教えどおりに 並ぶように 定めたのであった.

γaqai ǰil

ブタ年

五級, 高三百尺, 其下四面爲屋各七間, 環列諸佛, 具如經旨. 至大辛亥

[07] [ ] ger ebderegsen-i sonosču ner-e [ ]n-a γučin nigen od bolǰuγu. Či-čing

閣が 壊れたのを 聞いて 名 に 31 年たった. 至正

šim morin ǰil-ṯür suu-tu

壬 ウマ 年に 威霊もつ

仁皇御天, 聞有弊損, 遣延慶使搠思監, 輦鏹葺之. 又三十一年, 爲至正壬午,

[08] [ ] iregsen γaǰar. basa [ ]d-un ǰoban bosqaγsan-i sedkiǰü. ǰrlγ-iyar

来た土地, また 苦しみ建てたのを 想い, おおせによって,

endeče Budasiri-yi ileǰü. Qorum šingun yiučing Örügtemür-lüge qamtu

ここからブッダシリを遣わし, ホルム省の 右丞ウルグテムルと 共に

qadaγ alaǰu

監督し,

皇上念祖宗根本之地二聖築搆之艱, 勅怯憐府同知今武備卿普達失理暨嶺北行中書省右丞今宣政院使月魯帖木兒, 專督

[09] [ ]-tur tegüskeǰügü. ạne [ ] kümün-ü nidün-i ǰ[ ]lkü meṯü čoγ-tu bolǰuγu.

に 終えた. この 人目 を~するような威光もつものとなった.

süm-e-yin ger-ün dotor-a γadan-a deger-e ba door-a ǰiruγsan sigüsülegsen

寺 閣の 内 外に 上 と下に 描き 塗った

重修, 歴四年, 方致完美. 周塔塗金晃朗奪目, 閣中邊頂踵

[10] [ ]WR-C'KWY ba T[ ] bolγaγsan-i alin-i maγta[ǰu] baraγdaqu. orčin

と なしたのを, どれを 褒め 終わるべきか. 周囲を

inu qorayan n̲ödüǰü qoyar dabqur ǰergeber γurbaγad qaγalγ-a-tu bolγaǰuγu.

←その 巡り 築き, 二 重に 並ぶように 三つずつ 門をもつように なした.

q-an̲-ača

お上より

鉅細, 曲折, 若城平, 㮚堊, 靡不堅麗精至, 重三其門, 繚以周垣, 煥乎一新. 縣官

[11] [ ]'. urid'[ ]bögetele edügeki üile [a]d[alidqabasu] uridaqi-ača

以前～であるにもかかわらず, 今回の業 [と比べると] 以前のものより

ülegü boluγsan ajuγu. bing noqai jil arban nigen sara-yin doluγan sinede

凌駕したのであった. 丙 イヌ 年 十 一 月 初七日に

出中統楮幣, 爲緡二十六萬五千有奇. 費視昔半而功則倍之. 丙戌十一月七日,

[12] [ ]D' [ ]N öčibesü čingji Yiu-šim [bičig-i] joqiyatuγai kemen

奏上すると, 承旨 有壬 ..... 文書を 著せ とて

上御明仁殿, 中書省臣奏, 閣修惟新不可不銘, 勅翰林學士承旨臣有壬, 文諸石, 臣有壬承□□拝手稽首而言曰

[13] [ ] törögülkü [n] yosun-i bi maγui uqaγ-a ügegü ker ügül[ekü]

生み出させる やり方を 我は 悪く 知恵無く (して) 如何に 述べるか

天地運用之妙, 臣無得而名焉

[14] [ ] kökideju törögülün manduγulurun bügüde deger-eče door-a

驚かれて 生み出し発展させる際に 全て 上から下に

kürgeyü adalidqabasu tariγan usulaqui-tur usun-i

到らせることになる. 例えれば 穀物に 水をやる際に 水を

即其形迹近者言之, 風雷雨暘之散動潤烜, 發生萬物者, 皆自上而施于下. 源泉陂澤之流通抒泄,

[15] [ ] uluš bayiγulquy-a joqistu γaǰar buyu. tngri-yin mör kemebesü

国を建てる際に 適した 土地である. 天 の 道 と言えば,

umar-ača egüsüged tümen jüil eḍ-i törögülǰü manduγulumu.

北 から 始まり, 万 種の 物を 生み出し発展させる.

灌溉大田者亦由高以及乎卑. 我國家興王之地俯瞰萬國, 大聖人首出庶物, 位乎天德,

[16] [ ]-i enerin asaraqu bui adaliḍqabasu. deger-eče door-a ündür-eče

を憐れみ慈しむことである. 例えれば 上から 下へ 高から

boγoni-tur kürgeküi. ger deger-eče usun-i

低 へ 到らせる. 家の 上から 水 を

引該閎孳萌, 紐牙開闢, 而後蓄而未發之氣, 以資始品彙, 自上而施于下, 由

高以及乎卑, 故澤之流若高屋之建瓴,

[17] [ ] kemekü [ ] tṷrbel mital ügegüy-e uluš quriγaγsan erten-ü
言う 障碍・恐れなく, 人衆を 集めた 古えの
sam-qoŋg uu-di kemekün-i qoyitus ba q-an
三 皇 五帝 という者を 子孫 と 官
師之出如泰山之墜石. 功烈之成登三邁五, 漢而下莫我儗也.

[18] [tula] Qorum-a saγuqu balaγa[sun orosi]γuljuγu. Ögedei qaγan
[ために] ホルムに 居する 城市 を 定めた. オゴデイ = ハーン,
Moŋgke qaγan ayan deger-e yabubasu ber kümün-i
モンケ = ハーンは 旅 上 に 行っていても 人 の
定都和林, 造邦之基立矣. 太宗憲宗雖干戈間, 而以不嗜殺人

[19] [ ] burqan-u šasin ŋom-un yosun[-i] čegejin dotoraγan sedkir-ün nom
仏 の 教え, 法 の 理 を 胸の 内に 想うに, 法と
šasin-i delgeregülǰü ülü uqaqun mungqaγ-ud-i sayid udumiyar uduy-a
教え を 広めさせ 悟らざる 愚か者たちを よき 導きによって導こう.
爲心, 聞象教清淨覺皇慈仁之旨, 有契宸衷, 資其説, 以格蚩蚩之未格者,

[20] [ ]' yeke kündülemtegü sedkil-iyer es-e [ ] ba süm-e-yi
大いに 尊重すべき 心によって ～しない と 寺 を
bosqaγulqu šiltaγan ayin kü bui ǰ-e. suu-taŋ
建てさせる 理由はこのようであるぞ. 威霊もつ
非大示尊崇, 則無以為感觸之地. 而

[21] ['C'] ǰiluγ-a-tur-iyan oroγulqu iru iŋu [a]ǰuγu. Bi maγui boγol
[より] (自分の) 手綱の下に収める 兆し (←その) があった. 我, 悪しき下僕
Yiu-šim engke amuγulang čaγ-tur törögseber dotoγaṭu γadaγaṭu balaγad-tur
有 壬は 平 安 な 時 に 生まれたので, 内 外 の 城市 に
大聖人礨空四海, 撮土八埏, 囊括宇宙, 席巻河山之量, 寔兆朕於是焉. 臣有
壬生長熙洽之世, 朔南名刹, 罔不歴觀,

[22] ['] Qorum-ača iregsed ene süm-e-yin [ger] Šemsi. Si-čon. Geŋgje.
ホルムから 来た人々が この 寺 (閣) 陝西, 四川, 江浙,
Vu-geŋ. kiged γaǰar-a kürügsed ǰiči Qorum-a ŋoyalan odču. qariǰu
福建 などの地に 到った人びとが同様に ホルムに公用で 出かけ, 帰って

聞嶺北人謳閣之大, 竊疑其夸. 質諸嘗行陝蜀江廣閩浙且任嶺北之人

[23] [ ] balaγasun-ṯur bükün yeke süm-e ger Qorum-un [ ] kemeldübei.
城市 に ある 大 寺 閣が ホルム の 言い合った.
erte Šakimuni burqan-u čaγ-tur nigen Čitavan nereṯü süm-e- yin ger orčin
古えのシャカムニ 仏の時代に 一つのチタヴァンという名の寺閣の周りに
信天下之閣無與爲比也. 昔祇桓寺

[24] [ ] toyid-un saγuqu keyid nigen ǰaγun qorin bo[sqaγulbai]a
僧侶たちの 住む 僧房を 1 百 20 建(てた.)
qoyar kü kümün bosqaγuluγsan aǰuγu. edüge uluš
2人だけが 建てさせた のであった. 今, 国
基八十頃, 一百二十院, 祇陀須達二人成之. 我国家富有

[25] [nara]n singgeküi-tür kürtele nigedügsen-ṯür tere Čitavan süm-e
[太陽]が 沈む(場所)に至るまで 統一した際に そのチタヴァン寺
[ ] [metü] ündür yeke bögetele čoγtu uran büküi-ber
[のような]高く 大きいながらも 威光あり優美さがあることにより
四海, 視布地之金, 特鐫銖耳. 則此閣締搆之峻偉傑峙,

[26] [ ] aγula meṯü ündür bögetele Gandiragud aγula-ṯur ber
山のように 高いながらも 霊鷲山(りょうじゅせん) に こそ
adali buyu türü[ ]
等しい のである. 先に
與雪山相高, 鷲嶺侔盛宜也. 閣始無名,

[27] Qing-ön geu kemen nereyiḍčügü. Qing-ön kemebesü yeke Mongγol uluš-un
興 元 閣 と 名づけた. 興 元 というのは 大 モンゴル国 の
[ ]

但以大閣寺著稱, 皇上賜名曰「興元之閣」, 蓋經始之日, 寔我元順天應人,

[28] [suu-]dan degedüs tngri-yin ǰrlγ-iyar türün öber-ün uluš bayiγulun
[威霊]もつ祖先たちが 天 の おおせによって 先に自らの 国を 建て
iregsen učir [ ]tur masi nairaldun tengčeldümü. Qorum bürün
来たった時 において大いに一致しあい調和し合う. ホルムについては,

龍興之初, 名協乎實矣. 且和林

[29] urida Ön-čang luu nereṯü čölge bülege. qoyin-a basa J̌ön ün [ ] bolǰuγu. urida
以前に元昌路という名をもつ路であった. 後にまた 轉運 となった. 以前に
自元昌路爲轉運司, 爲宣慰司, 又爲嶺北行中書省, 丙辰迄今九十一年,

[30] suu-ḏan degedüs altan bey-e kürügsen balaγasun ene meṯü čoγ-tu yeke
威靈もつ祖先たちの金の身体が 到った 城市 が, このような威光もつ 大
süm-e[-yin ger] [ ]
寺 [閣]
而列聖峻極之蹟, 雄都瑰異之觀, 無一人一言及紀述者,

[31] suu-tu qaγan-u altan čikin-ṯür kürgegüleged sača. J̌rlγ-iyar ạne [ ]
威靈もつハーンの金の耳に 到らせるや否や おおせによってこの [ ]
čing [ünen]
真に [正しい]
一旦形諸玉音, 刻之堅珉, 遲速其亦有緣乎?

[32] γayiqamsiγ sayin a ạyimün yeke buyan-tu üile-yi ker ügüleǰü
驚くべき 良い ぞ! かような大きな 徳 行 を 如何に 言い
baraγdaq̄[u]
終わるべきか
於戲, 休哉! 爲大利益其可量也夫. 銘曰,

[33] terigüleš̱i ügei čaγ-ača inaγsi-ṯa delekei uluš samaγuraγsan-u qoyin-a [ ]
始め 無き 時より 今まで 世界と人びとが 混乱した 後に
鴻蒙再闢世再初,

[34] Činggis qan töröǰü delem-e qaris-un qad-i deyileǰügü. Yeke
チンギス = ハンが生まれて 愚かな他所の王たちを 打倒した. 大
Mongγol uluš bayi[ ]
モンゴル 国が 建て
聖神立極卑黄虞. 建邦乃握天地樞,

[35] uṉaγsan ṉabčin-i [ ] č[ö]bl[en] [ ]
散った 葉を 拾い
俯拾萬國如墜枯. 嗷嗷赤子飢待餔, 后奚後我來其蘇.

[36] küčüten [ ]

力持つ者たち

天戈豈欲專天誅,

モンゴル文面語註

[01]]m-e 「寺」

02行目から本文が始まっているため，01行目は碑題と見なし，//M-'を[sü]m-e「寺」と再構した．筆者の01行目の再構案は：ǰrlγ-iyar bayiγuldaγsan Qing-ön geu süm-e-yin ger-ün bii taš buyu.「おおせによって建てられた興元閣寺閣の碑石である」．その根拠は漢文面の碑題「勅賜興元閣碑」にある．しかし，伝存している碑石の漢文面では碑題の部分が欠けており，この碑題は編纂史料『至正集』及び『圭塘小稿』に拠るものであることに留意する必要がある．一方，ムンフトルガは，本碑文中にM-'という音節末は，qorum-a (ll. 2, 18), süm-e (ll. 3, 5, 9, 20, 22, 23, 25, 30), delem-e (l.34) の3形態で現れるとした上で，その中で[qoru]m-aという再構案を示す[Munkhtulga 2005, p. 169]．

[02] narbai ul[us-i] 「広大な国土を」

再構漢文面04行目「太祖聖武皇帝之十五年」に対応する．漢文原文がモンゴル語訳されるに際して，「チンギス＝ハンが大位に就いて広大な国土を支配した15年目に」というような意訳がなされたのであろう．筆者の再構案は：[Činggis qan yeke or-a saγuǰu] narbai ul[us-i nigedkegsen arban tabuduγar on] ging luu [ǰil-tür]「[チンギス＝ハンが大位に就いて] 広大な国［土を支配した15年］庚タツ［年に］」．類例として，1362年の漢文・モンゴル文対訳『大元敕賜追封西寧王忻都公神道碑名』冒頭の「惟我皇元受天明命，太祖皇帝起兵之四年」に対応するモンゴル語訳が：

möngke tngri-yin ibegeliber yeke Mongγol ulus-un qan-i narbai-yi nigedkegülün ǰayaγadaγsabar delekei-yin eǰen / Činggis qaγan tngri-yin ǰoriγ-i daγan ümedü γaǰar-ača yeke üile-yi bütügen altan beyeber ulus qamun ayalan yabuγsan dötüger on-dur「とこしえの天の加護により大モンゴル＝ウルスの統治者をして広大（な国土）を統一させるべく運命付けられているため，世界の主たる / チンギス＝ハーンは天命に従い，北方の地より大業を為し，

黄金の身みずからウルスを併せて遠征して行った4年目に ...」

と，かなり長文で意訳されていることを指摘しておく．なお，ここにも登場する narbai は「広大な」という形容詞である．ちなみにクリーヴスによって提示された再構は：Činggis qan yeke or-a saγuγsan arban tabuduγar on ...「チンギス＝ハンが大位に就いた15年目に ...」であった［Cleaves 1952, p. 69］.

[02] ging luu ǰ[il-t̲ür]　「庚タツ年［に］」

漢文原文の「歳在庚辰」に対応する．「庚タツ年」は西暦1220年．ポッペの拓影 Poppe 2 によると，明らかに ǰ[il] の語頭の Y 文字が読み取れる．

[03] [ ]' ǰasaγad　「治め ...」

漢文面05行目「太宗皇帝培植煦育民物康阜」の「培植・煦育する」に対応する．

[03] [ ]T sayi ordu [-ban] bosq̄aγuluγad　「〜て初めて宮殿［(←自分の) を］建てさせて」

[ ]T と再構したのは，[boluγa]d sayi「なりて初めて」を想定したため．[ ]T は実際には縦棒しか見えないが，taw 文字の下の部分と見なしたい．「なりて」は漢文面の「培植煦育なりて」から想定した．この部分は全体として，漢文面05行目「始建宮闕」に対応する．オゴデイが万安宮を建てさせたことを述べているのであろう．なお再帰格語尾 [-ban] は Poppe 2 と Radloff 1 の間の欠損部分をクリーヴスが再構したもので，ここには通常の対格 -yi も再構し得る．

[03] tegüneče ulam ...「それから更に寺閣を建てさせる際に，土台つきで築かせて，屋舎を建てさせる時はならなかった.」

漢文面05行目「因築梵宇基而未屋」（因りて梵宇を築くに基して未だ屋せず）に対応する．tegüneče ulam は漢文の「因りて」に対応し，「その結果として更に」という意味になる．süm-e-yin ger「寺閣」は，興元閣全体を指している．degtü n̲ödügüljü は直訳すると「土台つきで搗き固めさせて」の意．興元閣の土台を造ったが，建物じたいを建てさせるにはいたらなかった由．つまり，オゴデイは宮殿（＝万安宮）を建てさせた上で，更に寺閣の土台までを造らせたことになる．残念ながら，この文脈だけでは，万安宮のあった場所に興元閣の土台を造らせたのか，或いは別の場所に土台を造らせたのかまでは判断できない．

[04] [ ]a saγuγsan-u qoyin-a 「に就いた後に」

漢文面 06 行目「憲宗（繼述）」に対応する．[Möngke qaγan yeke or-]a saγuγsan-u qoyin-a「モンケ＝ハーンが大位に就いた後に」という再構案を示しておく．See Munkhtulga 2006, p. 169.

[04] [ ]luγad 「〜て」

クリーヴスは漢文面の「繼述歳丙辰」から [bing luu jil-dür jalγamji]luγad「丙タツ年に継続して」という再構案を示すが，2003 recto の発現により，これだけの語句は碑面に収まらないことが明らかになった．筆者は [bing luu jil bo]luγad「丙タツ年（に）なって」という再構案を示しておく．丙タツ年は西暦 1256 年.

[05] ayalar-a morilaǰuγu 「遠征するために旅立った」

ayala-「出発する」；-ra- は目的を示す副動詞［Poppe 1974, p. 98.］．漢文面 06 行目の「六龍狩蜀」に対応し，モンケの四川遠征（1257 年）を指す.

[06] [ ]R inu γurban ǰaγud toqoi-tu. dour-[a] 「…は 300 尺であり，下…」

漢文面 06 行目「高三百尺其下」に対応する．[ ]R は [öndü]r「高さ」と再構できる．toqoi「肘」は漢語の「尺」に相当．『華夷訳語』甲種本では「肘脱[中]孩（toqai)」とある［栗林 2003, p. 52, No.694］．ちなみにクリーヴスによって提示されたこの部分の再構には：öndür inu γurban ǰaγun či ... door-a inu ... と，漢語「尺」のモンゴル語音写形 či が使われていた［Cleaves 1952, p. 69; p. 91, note 42］.

[06] [ ]N gen-tü keyid 「？間の建物」

漢文面 06 行目「四面爲屋各七間」より，[ ]N は doluγan「7」と再構できる.

[06] γaqai jil「ブタ年」

漢文原文の「至大辛亥」に対応する．至大 4（西暦 1311）年.

[07] [ ] ger ebderegsen-i sonosču 「閣が壊れたのを聞いて」

漢文面 07 行目「仁皇御天聞有弊損」より，[Buyantu qaγan ene süm-e-yin] ger ebderegsen-i sonosču「ブヤントゥ＝ハーンはこの寺閣が壊れたのを聞いて」と再構できる.

[07] Či-čing šim morin jil「至正壬ウマ年」

漢文原文の「至正壬午」に対応する．至正 2（西暦 1342）年.

[08] [ ] iregsen γaǰar. basa [ ]d-un ǰoban bosqaγsan-i sedkiǰü.「[ ] 来た土地，また，[ ] の苦しみ建てたのを想い」

漢文面 08/09/10 行目「皇上念祖宗根本之地二聖築搆之艱」より，[qaγan uridus-yuγan] iregsen γaǰar. basa [qoyar seče]d-un ǰoban bosqaγsan-i sedkiǰü.「ハーンは祖先たちの来た土地，また，2 聖人の苦しみ建てたのを想い，...」と再構できる．See Munkhtulga 2006, p. 170.

[09] ene [ ]「この [ ]」

スラッシュの部分は 2003 recto と Poppe 2 の間の欠損部で，せいぜい一語分のスペースしかない．ene [kemebesü]「これはと言えば」，或いは ene [bürün]「これは」と再構できる．

[09] kümün-ü nidün-i ǰ[ ]lkü meṯü「人目を～するような」

スラッシュの部分は Poppe 2 と Radloff 1 の間の欠損部で，ǰ[ ]lkü が一語であることは疑いない．漢文面 10 行目「方致完美周塔塗金晃朗奪目」に対応する部分で，モンゴル語ではかなり抄訳されていることがわかる．問題の語 ǰ[ ]lkü の前半部について，Poppe 2 の拓影から語頭が yod であることが窺われるが，kaf かもしれない．後半部分について，コトヴィッチは -lekü と写し，クリーヴスは -elkü と転写する．しかし我々が再拓した Radloff 1 によると，[ ]lkü としか読めない．クリーヴスはモスタールト案として gilbelkü「輝く」，ポッペ案として ǰirbigülkü「(目を) くらます」をそれぞれ提示している [Cleaves 1952, pp. 95-96, n. 76] が，筆者は gilbegülkü「輝かす」という再構案を提出しておきたい．

[10] [ ]WR-C'KWY「？」

ムンフトルガは C'KWR と読み，ペリオ [Pelliot 1934] とブッドバーグ [Boodberg 1936] を引用しつつ，問題の単語はサンスクリット語起源のトカラ語 *čäkür「望楼・ストゥーパ」からモンゴル語に導入された可能性を示唆している [Munkhtulga 2005, pp. 170-171] が，トカラ語として在証されておらず，また，モンゴル語に導入される前に必然的に経由したはずの古代ウイグル語においても管見の限り在証例を見ないため，可能性は低い．筆者にも成案は無いが，1) 語末は resh ではなく yod と読みうること，2) 本碑 03 行目：bosqaγulur-un のように，resh 文字で中絶する綴り方があること，3) -ča- / -če- は動詞語幹に接辞して「互いに～する」という意味を生じること（例：

qarbuqui「弓を射る」⇒ qarbučaqui「弓を射合う」(『元朝秘史』§244)) を勘案すると, [ ]ürčeküi という形で, 漢文原文の「曲折」の「曲」(=曲がった) あるいは「城平」の「城」(=突き出た) に対応する意味をもつモンゴル語が再構できるかもしれない.

[10] orčin inu ...「その周囲を巡り築き, 二重に並ぶように三つずつ門をもつようになした」

漢文原文の「重三其門繚以周垣…」すなわち「重ねて其の門を三となし, 繚(めぐ)らすに周垣を以てし, …」に対応する.

考古学的調査によって提出された, オゴデイの万安宮があった場所に興元閣が建てられたという新説に拠れば,「大型建物」を取り巻く二重のレンガ壁がこれに相当する [白石・ツェヴェーンドルジ 2007, p. 3, 図 3]. 図面によると, 二重のレンガ壁はそれぞれ南壁に門跡を有しているので, それぞれの門跡には, 至正 2 (西暦 1342) 年の重修によって, 横に三つ連なった門が造られていたと解釈できよう.

[11] bing noqai jil「丙イヌ年」

漢文原文の「丙戌」に対応する. 至正 6 (西暦 1346) 年.

[18] [tula]「ために」

Poppe 1 ではよく読めないが, 新たに採拓した Poppe 1 lower を見ると, TWL' と読める.

[21] [-'C']「より」

Poppe 1 では良く読めないが, Poppe 1 lower を見ると, 22 行目: Qorum-ača の -ača と同じく 'C' と読める. 奪格語尾と見なす.

[21] iru inu [a]ǰuγu 「その兆しがあった」

先行研究では yerü [.....]ǰuγu.「全て〜だった」と解釈されてきたが, Poppe 1 lower を見ると, 'YRW 'YṄW と読むことができる. iru は「兆し」の意. 17 世紀以降のモンゴル語文献では 'YRW-' / iru-a と書かれることが多くなる. 例えば, 17 世紀初頭に成立した『アルタン=ハーン伝』において, この単語は iru と iru-a の両方の形で現れる [吉田他 1998, 37a, l. 1, l. 10]. 漢文原文の「寔に兆朕是れに於けり」の「兆朕」に対応する.

[28] [suu-]ḍan degedüs...「[偉霊] もつ祖先たちが…」

漢文原文の「龍興之初」に対応し, モンゴル語はかなり意訳されている.

クリーヴスは bayiγulun と učir のあいだに 2 語あるとしながら転写案を示さなかったが，新たに採拓した Poppe 1 lower を見ると，'YR'KS'N / iregsen「来たった」一語だけと読める．本碑 08 行目の同じ単語を参照．

4．漢文面

碑石の漢文面は 4 点が伝存している．

Radloff 2	Radloff 1892, XLI-2
2003 verso	Katalog p.151; Мөнхбаяр 2005, p. 166.
Shiraishi	白石・ツェヴェーンドルジ 2007, p. 4.
Poppe 1 verso	inedited.

これらのうち，ラドロフの注記及びモンゴル文面との位置関係から，Radloff 2 は Radloff 3 と表裏になる．Poppe 1 verso は，残存する Poppe 1 の下半分の裏面で，今回，初めて公表される．

参照文献

Баяр, Д. 2005: "Эрдэнэ зуугийн цогчин дуганыг малтан судалсан нь." *Археологийн Судлал* 23:10, pp. 144-155.

Boodberg, P. A. 1936: "Two Notes on the History of the Chinese Frontier." HJAS 1, pp. 283-307.

Dobu 1983: *Uyiγurǰin mongγol üsüg-ün durasqaltu bičig-üd.* Begeǰing.

Cleaves, F. W. 1952: "The Sino-Mongolian Inscription of 1346." *HJAS* 15, pp. 1-123, -12 pls.

Hüttel, Hans-Georg 2005: "Der Palast des Ögedei Khan – Die Ausgrabungen des Deutschen Archäologischen Instituts im Palastbezirk von Karakorum." *Katalog*, pp. 140-146.

Жанчив, Ё. 2006: *Сонгодог монгол бичгийн өмнөх үеийн дурсгалууд.* Улаанбаатар.

Katalog: ⇒ Kunst- und Ausstellungshalle der Bundesrepublik Deutschland GmbH

Корсункиев, Ц. 1980: "К дешифровке и переводу на русский язык В. Л. Котвичем надписей на камнях из Кара-Корума." *Хэл Зохиол Судлал* 14:7, pp. 24-30.

Котвич, В. Л. 1917: "Монгольскія надписи въ Эрдени-дзу." *Сборник Музея Антропологии Этнографии при Росийском Академии Наук* 5-1, pp. 205-214.

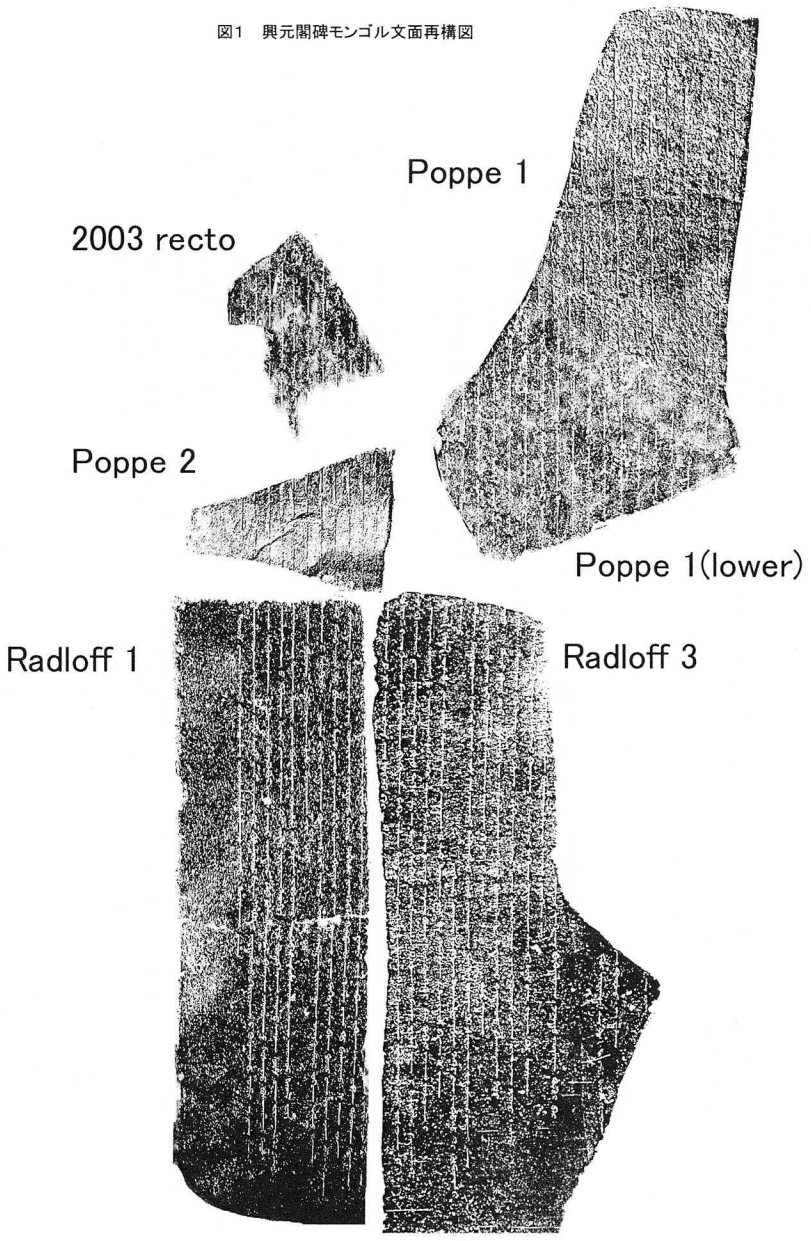
Kunst- und Ausstellungshalle der Bundesrepublik Deutschland GmbH (ed.) 2005: *Dschingis Khan und seine Erben. Das Weltreich der Mongolen. Katalogbuch zur Ausstellung.* München.

栗林均 2003: 『『華夷訳語』（甲種本）モンゴル語全単語・語尾索引』仙台.（東北アジア研究センター叢書 10）

Ligeti, L. 1972: *Monuments préclassiques 1, XIIIe et XIVe siècles.* Budapest. (Monumenta Linguae Mongolicae Collecta II)

前田直典 1945:「元朝行省の成立過程」『史学雑誌』56:6, pp. 1-72.
松川節 2006:「新発現の漢モ対訳『勅賜興元閣碑』碑片」『中世北東アジア考古遺蹟データベースの作成を基盤とする考古学・歴史学の融合（科学研究費補助金報告書）』pp. 74-81, 龍谷大学.
松川節 2008:「『勅賜興元閣碑』の再構」『内陸アジア諸言語資料の解読によるモンゴルの都市発展と交通に関する研究（科学研究費補助金報告書）』pp. 201-207, -3 pls., 大阪国際大学.
Мөнхбаяр, Л. 2005: "Эрдэнэ зуугаас шинээр олдсон монгол нангиад бичээсийн уншлага." *Археологийн Судлал* 23:11, pp. 158-167.
Munkhtulga, R. 2005: "Mongolian Text of a Newly-Found Fragment of Karakorum Inscription of 1346." *Археологийн Судлал* 23:12, pp. 168-173.
Pelliot, P. 1925: "Note sur Karakorum." *JA* 206, pp. 372-375.
Pelliot, P. 1934: "Tokharien et Koutchéen." *JA* 224, pp. 23-106.
Pelliot, P. 1930: "Livres reçus: Review to Поппе 1929." *TP* 27, pp. 228-229.
Поппе, Н. Н. 1929: "Отчет о поездке на Орхон летом 1926 года. (Предварителный отчет лингвистической экспедиции в северную Монголию за год 1926.)" *Материалы комиссии по исследованию монголиской и танну-тувинскойнародых республики бурят-монгольской СССР* 4, pp. 1-25, Ленинград.
Poppe, N. N. 1954: *Grammar of Written Mongolian*. Third Printing. Wiesbaden.
Radloff, W. 1892: *Atlas der Alterthümer der Mongolei*. I. St. Petersburg.
白石典之 2006:『チンギス・カン ―― "蒼き狼" の実像――』東京.（中公新書 1828）
白石典之・D. ツェヴェーンドルジ 2007:「和林興元閣新考」『資料学研究』4, pp. 1-14, 新潟大学.
Төрбат, Ц. 1997: "Хар хорумын монгол бичээсийн талаар дахин өгүүлэх нь." *Түүхийн Судлал* 30-11, pp. 90-99, -2 pls.
Tumurtogoo, D. and G. Cecegdari 2006: *Mongolian Monuments in Uighur-Mongolian Script (XIII-XVI Centuries) Introduction, Transcription and Bibliography*. Taipei. (Language and Linguisitics Monograph Series A-11)
吉田順一他 1998:『『アルタン＝ハーン伝』訳注』東京.

図1　興元閣碑モンゴル文面再構図



漢文面（ゴシック体でない字は『至正集』巻四五、碑志二「勅賜興元閣碑」（『元人文集珍本叢刊』五二ｂ～五四ｂ）により補った部分）

勅賜興元閣碑

旨榮禄大夫知　制誥兼脩　國史知
□旨榮禄大夫知　制誥兼脩　國史□

太祖聖武皇帝之千五年歳在庚辰定都和林

太宗皇帝培植隗育民物庶阜始建宮闕因築梵宇基而未塵

憲宗繼述歳丙辰作大浮屠覆以傑閣鳩功方殿大龍狩蜀代工使能仰嚮絡繹力底於成閣五級高三百尺其下四面爲屋各七間環列諸佛具如經旨至大辛亥

仁皇御天開有弊損遣延慶使搦思監營繕葺之又三十二年爲至正壬午

皇上念

祖宗根本之地

二聖築撙之艱勅怯憐府同知今　武備卿普遷失理暨嶺北行中書省右丞今宣政院使月魯帖木兒奉　命重修歴四年乃致完美周塔塗金晃朗奪目閣中塗頂

踵鉅細曲折若城平榮塋靡不堅麗精至重三其門線以周垣煥乎一新縣官出中統寶鈔爲緡二十六萬五千有奇費視昔半而功則倍之丙戌十二月七日

上御明仁殿中書省臣奏閣修惟新不可不銘　勅翰林學士承　旨臣有王文謚石臣有王承

□□拜手稽首而言曰　天地運用之妙臣無得而名焉即其形迹近者言之風雷雨暘之散動潤烜發生萬物者皆自上而施于下源泉陂澤之流通抒泄灌溉大

田者亦由高以及乎卑我　國家興　王之地俯瞰萬國大聖人首出庶物位乎天德引該関孳萌紐牙開闢而後蓋而未發之氣以資始品彙自上而施于下由

高以及乎卑故澤之流若高屋之建瓴師之出如泰山之墜石功烈之成登三邁五漢而下莫我儷也定都和林造邦之基立矣

太宗

憲宗睢干戈間而以不嗜殺人爲心聞象教清淨覺皇慈仁之旨有契宸衷資其說以格蚩蚩之未格者非大示尊崇則無以爲感幅之地而大聖人擧空四海撮土

八埏囊括宇宙席巻河山之量寔兆朕於是焉臣有壬生長熙洽之世朔南名剎罔不爾瞻爾願北人譏閣之大窮窾其奇寶諸嘗行陝蜀江廣閩浙且仕嶺北之

人信天下之閣無與爲比也昔祇桓寺基八十頃一百二十院祇陀須達二人成之我　国家富有四海視有地之侈崇麗鉄耳則此閣締構之峻偉傑峙與雪山

相高鷲嶺俾蹙宜比閣始無名但以大閣寺著稱

皇上賜名曰興元之閣蓋經始之日寔我　元順天應人龍興之初名協乎實矣且和林自元昌路爲轉運司爲宣慰司又爲嶺北行中書省丙辰迄今九十一年而

列聖峻極之睿雄都瑰異之觀無一人一言及紀述者一旦形諸玉音刻之堅珉遵速其亦有緣乎於戲休哉爲大利益其可量也夫銘曰　鴻蒙再闢世再初

聖神立極卑黄虞建邦乃握樞倚抬萬國如墜枯敲敲赤子飢待哺后粟我來其蘇天戈豈欲專天誅心以不殺人自孚願茲象教非虚無與我異世而同

符以大智慧明慕思開極樂國包寰區祇園方欲鳩其徒乘龍遵爾反鼎湖後聖繼作志不渝巍巍成此兜率居不宏其規豈遠模矗天拔地高標孤中有屹立金

浮屠諸佛環雍分四隅至大修廢走使車三十一年等須臾吾皇法祖恢聖謨坐令金碧新渠渠廼恩覆幬均堪輿如閣容塔緛有餘中書有請帝曰兪汝臣有壬

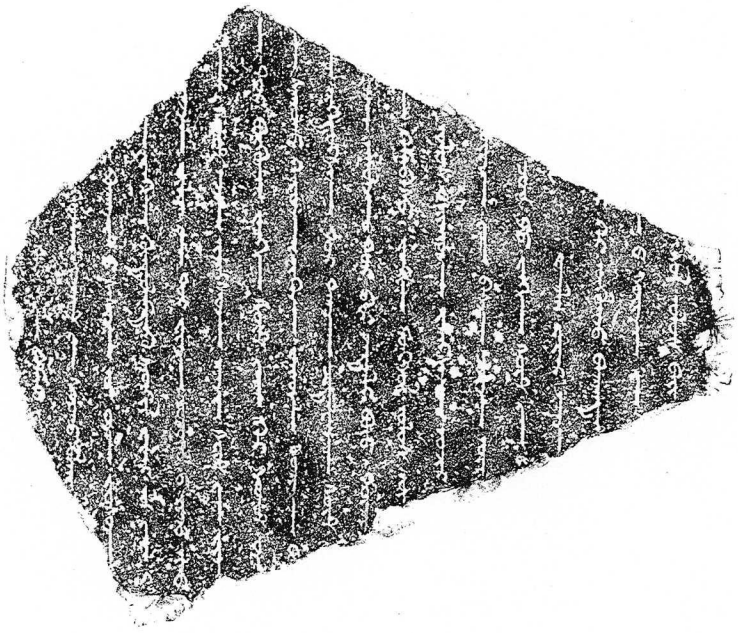
其大書不泐不磷磐石如億萬斯歳綿皇圖

Poppe 1 verso

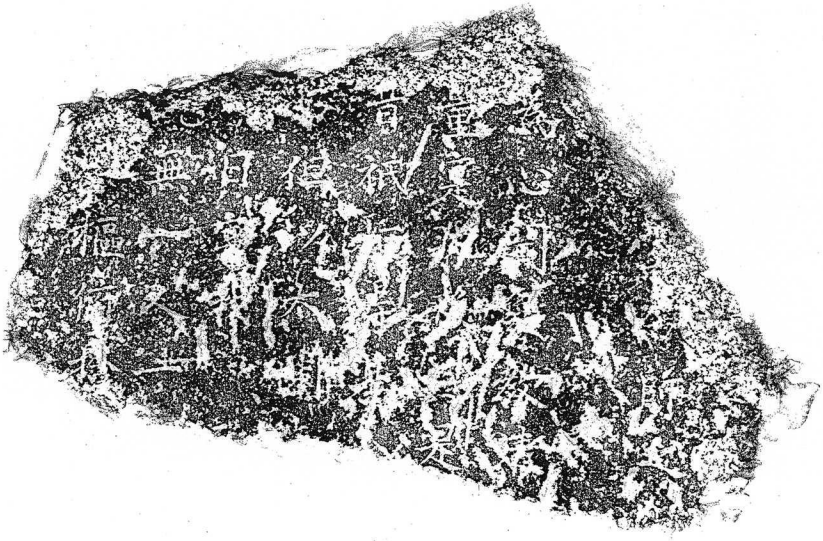
2003 verso

Radloff 2

Shiraishi

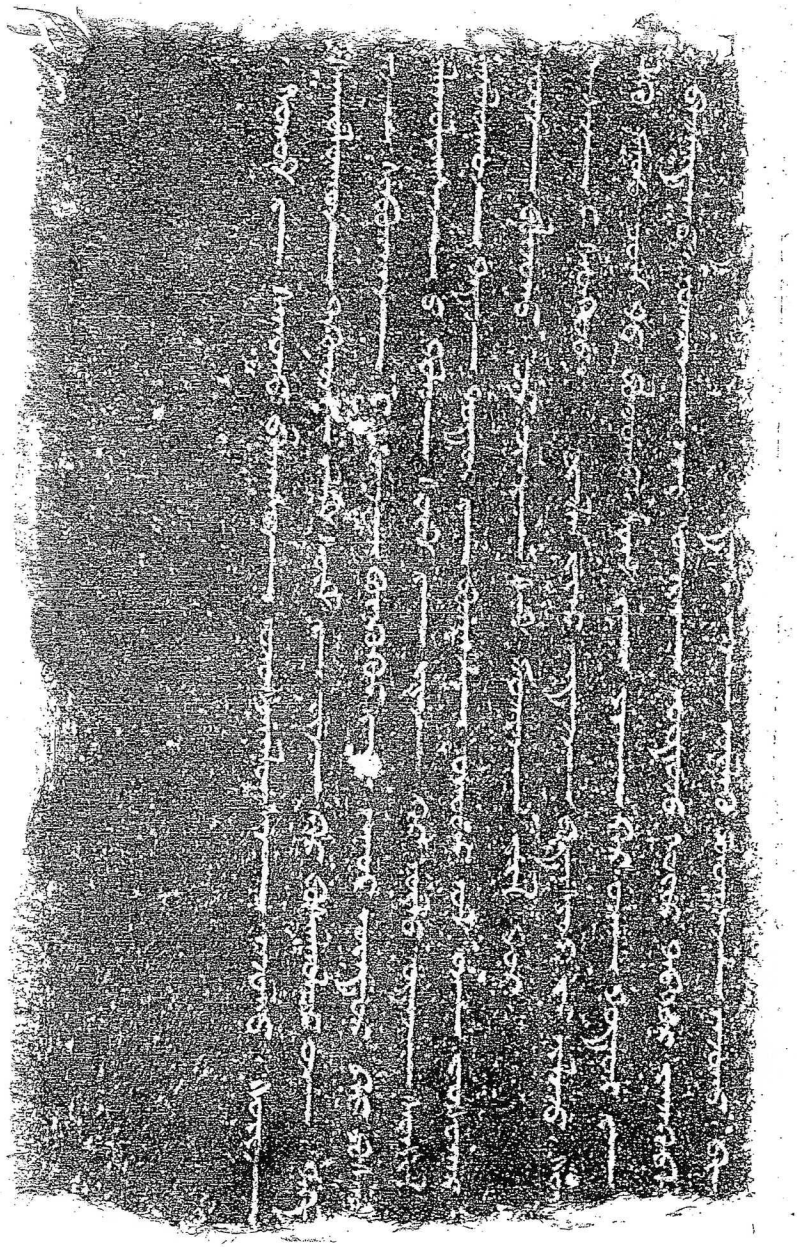


Poppe 1 lower（モンゴル文面）の拓影

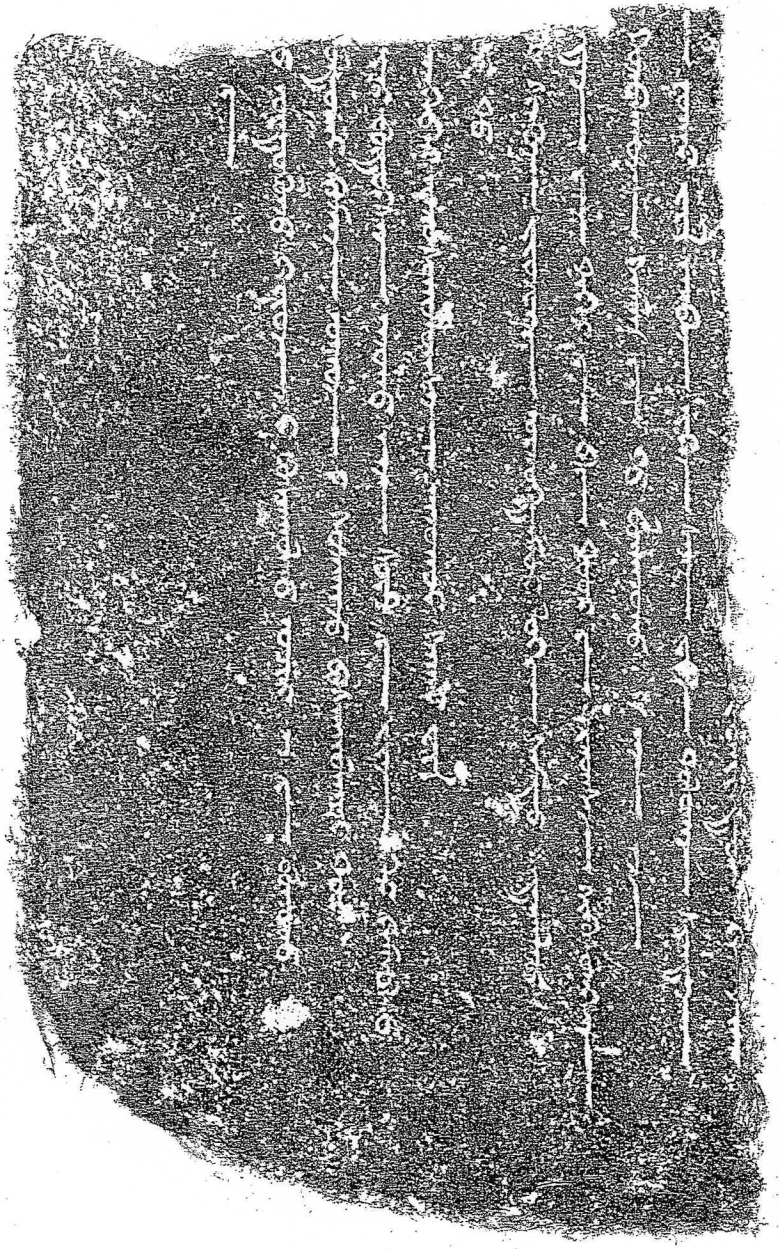


Poppe 1 verso（漢文面）の拓影
（松川 節）

Plate V



Radloff 1（モンゴル文面）の新たに採拓した拓影の上半分
（松川 節）

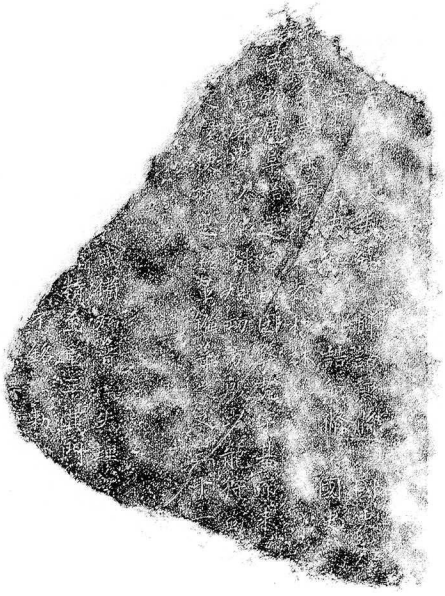


Radloff 1（モンゴル文面）の新たに採拓した拓影の下半分
（松川 節）

Plate VII



2003 recto（モンゴル文面）の拓影



2003 verso（漢文面）の拓影　（松川 節）